

## 令和7年度 東京都立府中けやきの森学園 学校経営報告

### 1 今年度の取組目標とその達成に向けた具体的方策と成果

【自己評価】◎：高い水準で達成（目標値10%超）、○：達成（目標値超）

△：一部未達成（目標値20%減まで）、×：未達成（△に至らない）

#### (1) 経営目標の明確化と共有

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価75%以上

##### ①児童・生徒のウェルビーイングの実現（自他ともにより良く生きる）を目指す学び〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足84.3% 教職員：満足92.3% 平均：88.3%

- ・ウェルビーイングについて、年度当初に、「自己肯定感の涵養」「自己有用感の高揚」「個性化」というポイントを示し、全児童・生徒の個別指導計画の中にウェルビーイングに関する項目を一つ指定するようにして、児童・生徒本人、保護者とも共有しながら年間を通して指導を行った。
- ・「東京型教育モデル」の3つの学び（意欲を引き出す「学び」、社会全体の力を生かした「学び」、ICTの活用による「学び」）をベースに個のニーズに合わせた教育を推進した。
- ・「意欲を引き出す学び」については、一人一人の障害の状態を見極め、一つずつできることを増やしていくことを全教員が指導の根幹に据え、できた喜びを分かち合うとともに、自己決定・自己選択できる場面をできるだけ多く授業に取り入れるようにした。
- ・「社会全体に支えられた学び」については、小学校（白糸台小、府中四小）・中学校（府中二中）・高等学校（府中東高校）との学校間交流を保護者間交流も含めて実施するとともに、児童・生徒の居住地の小・中との直接副籍交流を44名が実施した。高等部では、職場体験、現場実習を地域の多くの企業の協力を得て実施した。また、警察や消防と連携した不審者対応訓練や総合防災訓練の取組、ポニーとの触れ合い体験、地元ラグビーチームとの協働体験なども行った。さらに、飛田給駅前花壇の整備など地域貢献活動、府中工科高校とのe-パラスポーツの体験交流、小柳小、府中一中、キューピーアイとのボッチャ交流などを実施した。
- ・「ICTを活用した学び」については、すべての児童・生徒に対して、授業で日常的に活用するようになってきた。音楽アプリ、日記作成アプリをはじめ、調べ学習、タブレット上の問題解答、学習者間での意見交換・共有、また、見えにくい位置の物の呈示、視線入力アプリの活用など、学級や学習グループで様々な活用がなされ、個別的な学びや協働的な学びが深まっている。また、肢体不自由教育部門で準ずる教育課程では、引き続きデジタル教科書の活用に関する研究を都教育委員会と連携して進めている。
- ・SDGsプロジェクトを実施し、野菜くず堆肥作りを中心として、家庭での手伝いで出た野菜くずの持参、学校給食の調理時にでる野菜くず集めを行い、それを高等部生徒が発酵させて完熟堆肥を作り、野菜栽培、花育て、堆肥そのものの製品化、野菜の販売、地域への花配りなどを全校的に教育課程に位置付けて行うことができた。（都指定事業・社会の課題に対応した教育活動）

##### ②学校から十分な情報発信がなされているか〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足92.0% 教職員：満足81.9% 平均：87.0%

- ・毎月の学校だよりの発行計画を策定し、計画的にその時々々の学校生活の様子を、間を置かずクラッシーを用いて発信し、保護者・地域に伝えた。

- ・その結果、保護者は、カラー写真入りで学校での様子を知ることができ、家庭で子供と一緒にみる機会が増えた、などの声が多く上がった。
- ・学校経営方針及び学校経営状況を広く知ってもらうために、広報活動を充実させた。ホームページの更新回数は目標の150回に対して、172回行った。

## (2) 経営目標の達成に向けた指導内容の改善・充実

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

### ①「学ぶ楽しさ」「活動する喜び」を味わうことができる授業〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 82.0% 教職員：満足 81.9% 平均：82.0%

- ・毎月の研究日をカリキュラム・マネジメントタイム（年3回は短縮日を活用したロングバージョン）とし、肢体不自由教育部門・知的障害教育部門とも教科等を合わせた指導の在り方で指導すべき教科等の目標・内容が含まれているかの検証及び新単元の創出について研究を進めた。
- ・研究・研修部が自立活動充実プログラムと称するアーカイブ動画を20本程度作成し、ポイント制で全教職員が視聴し研さんを深めた。
- ・ウェルビーイングに関する視点を、研究授業指導案の末尾に記載することを昨年から引き続き継続した。
- ・次年度は、教職員研修でウェルビーイングに関する講演会を予定するとともに、2月には公開研究会を計画している。
- ・全教員が一人1実践（研究授業（159回）・授業観察・教材の作成及び活用（教材展年1回））を行い、授業改善を図った。
- ・夏季休業中に年次研修者のポスター発表を実施し、若手の発表に対して中堅・ベテラン層が熱心に助言するなど相互の討論が行われた。
- ・全研究授業（159回）を4級職以上が原則複数で授業観察（校長による授業観察を含む）し、授業後の研究協議会では積極的な意見交換、指導教諭等からの指導・助言を行った。
- ・令和8年度の年間指導計画（知的障害教育・知的代替、自立活動主）作成に当たっては、引き続き学習指導要領の各段階に照らして指導内容が適合しているか点検を行い、改善を図る。

### ②「個別指導計画」の充実〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 92.6% 教職員：満足 75.1% 平均：83.9%

- ・年度当初の個別指導計画策定時に、全教員が担当児童・生徒に、ウェルビーイングに関する目標を一つ設定し、本人や保護者とも共有し指導に当たった。年間半期に一度評価し見直した。
- ・3観点評価について、「知識・技能」は児童・生徒が身に付けるべき基礎・基本、「思考力・判断力・表現力等」は、児童・生徒が主体的にそれを使って自己決定・自己選択することという理解が教員及び保護者間で進んだ。
- ・「学びに向かう力・人間性等」については、教員がいかに創意工夫した授業構成を提供できるか、教材を工夫するかということにより、児童・生徒の授業に取り組む姿勢の変化を見て取るということの意味について理解した。

## (3) 教育効果を高める環境整備の徹底

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

### ①学習に適した安心・安全な学校の施設・設備の管理〈○〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 84.6% 教職員：満足 70.3% 平均：77.5%

- ・夏の暑さで集中冷房装置が故障し、暑さのため短縮授業を行わざるを得ない事態となった。幸

い、夏季休業中に都教育委員会の尽力により、教室の個別空調化が図られ、9月からは通常どおりの授業を行うことができた。

- ・日頃から4S「整理、整頓、清潔、清掃」活動を推進した。廊下の物品の管理、教室内の整理・整頓、職員室等のクリーンデスクなどについて実践したが、さらに充実させる必要がある。
- ・教室内の構造化を徹底し、シンプルな空間づくりを心掛け、学習に集中できるようにするとともに、けがの防止に努めた。
- ・校内アートプロジェクトとして、児童・生徒の優れた作品を選考・表彰した。

## ②GIGA端末やスマートスクール端末を活用した児童・生徒の学びを深める授業の推進〈△〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 55.9% 教職員：満足 76.1% 平均：66.0%

- ・全教員が児童・生徒の実態に応じて、ICT機器を活用した授業を実施した。教員向けデジタル端末活用研修として、様々なアプリ・ソフトの使用法の研修を行い、教員は様々な指導ツールを活用できるようになった。
- ・教員によるICT機器の活用度は高まったため、満足度も上がったが、保護者は、家庭への持ち帰りによる活用をイメージしていると思われ、満足度が教員と保護者との間で乖離している。
- ・タブレット端末を、児童・生徒の自宅に持ち帰らせて、家庭学習のツールとして使用するなどの工夫をさらに進めていく必要がある。
- ・視線入力・スイッチ類、プログラミング教材など、様々な側面から、さらに研修等をとおして、ICT機器の効果的な使い方を広めていく必要がある。
- ・肢体不自由教育部門（準ずる教育課程）におけるデジタル教科書の活用について、都教育委員会と連携し教育内容の充実を図るための研究を推進した。次年度も引き続き行っていく。（都指定研究事業）

## （4）健康と安全に係る教育（支援）の充実

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価 70%以上

### ①健康教育の充実〈○〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 77.5% 教職員：満足 81.9% 平均：79.7%

- ・心の健康教育に関し、切れ目のない支援体制の構築を目指して、多摩府中保健所と共同で制作した「SOSの出し方に関する教育」の普及啓発ツール「モヤモヤって何だろう」を使い、両部門高等部生徒に、卒業後にも地域の支援者がいることを知らせた。次年度からは、学校のみで、本事業を継続していく。
- ・歯科校医や歯科衛生士による発達段階に応じた適切な口腔衛生とブラッシング指導を行い、児童・生徒に口腔衛生の大切さを学ばせるとともに歯磨きの習慣づけに資した。
- ・摂食指導に関しては、年度初めに専門の小児科医による悉皆研修を実施するとともに、必要な児童・生徒に月に1～2回の摂食相談を行い、異なる形態食の「合い盛り」の取りやめを順次進めた。

### ②安全教育・安全管理の充実〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 88.4% 教職員：満足 92.1% 平均：90.3%

- ・児童・生徒自身の「危険を予測し回避する能力」の向上に向けて、毎月実施の避難訓練（火災・地震・水害・竜巻・Jアラート）の充実を図った。
- ・府中市防災危機管理課、府中消防署、都立公園、社会福祉協議会と連携し、全児童・生徒が消火体験、起震車体験、防災グッズ制作、仮設トイレ設営などの各ブースを体験し、自助・共助・公助を学ぶ全校総合防災訓練を実施した。その際、教員による災害時初動訓練として発電機起動訓

練を行った。

- ・大規模地震を想定した保護者引き取り・引き渡し訓練を実施した。
- ・日本赤十字社東京支部の協力を得て、高等部1年生を対象とした防災講演会（避難所生活について）、災害備蓄品試食会を実施した。
- ・バス会社、警察署及び日本交通安全普及協会と連携し、営業用バスの乗車体験、自転車シミュレーター体験などを行う交通安全教室を実施した。

#### (5) その他本校の課題の解決に向けて

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

##### ①感染症に対する十分な対策〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 81.0% 教職員：満足 85.5% 平均：83.3%

- ・感染症対策に関しては、今年度からマスクは任意としたが、継続して、手洗いの励行、換気を奨励し、コロナ、インフルエンザとも、蔓延による学級閉鎖等に至ることはなかった。

##### ②教職員の働き方改革の推進〈×〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 47.0% 教職員：満足 51.8% 平均：49.4%

- ・月に1回、「学校における働き方改革推進プラン」に基づき教職員の働き方（在校時間、業務内容等）を把握し、長時間勤務の是正に努めた。
- ・年間の年次有給休暇等の取得について目標値を定め、計画的な取得を促した。  
年次有給休暇取得：15日以上（達成率：64.5%）
- ・男性の育児休暇取得を推進した（4名）。
- ・令和9年度からの水曜日全校1便下校日に向けて、スクールバスの契約変更などの準備を進めた。次年度、具体的に職務時間内の諸会議や研修の年間計画を立案し、全教職員が揃って会議・研修が実施できるように準備する。
- ・次年度から、地域の作業所等に、教材作成業務を委託する事業（人事部勤労課事業）を開始し、教員の負担軽減を図る。

## 2 次年度以降の課題と対応策

本校に在籍する児童・生徒には、本校での12年間の教育をとおして、卒業後の人生を生きていくための土台となる様々な資質・能力を身に付けてほしいと願っている。将来社会の中で生きていく児童・生徒の姿をイメージしながら、自他ともにより良く生きる「ウェルビーイング」を教育活動の理念に据えた。その手段として、一人一人異なる児童・生徒のQOL（クオリティ オブ ライフ「生活の質」）の向上を図ることを進めてきた。

今年度は、教育活動の基本的な計画である教育課程をどのように組み立てると児童・生徒のより良い成長につながるかということで、「ウェルビーイングを目指したカリキュラム・マネジメント」を全校の研究テーマとして、教育実践に直結させるため、教育課程の改善、授業の改善・充実を図ってきた。

ウェルビーイングの意味の浸透については、基本は信頼関係の構築による自己肯定感の涵養、それをベースにできることを増やし、自分で状況をコントロールしているという実感を持ち、人の役に立つことで感謝される経験を積むことによる自己有用感の向上、この2つを経て、一人一人が「自分らしく成長していく」個性化を遂げていくという考え方が共有されてきた。教員は、児童・生徒一人一人のウェルビーイングに向かう過程を把握する感度をさらに上げる必要がある。そのためにも、個別指導計画の中にウェルビーイングに関わる目標を設定すること（当該の目標は☆印で示す）を継続していきたい。今年度は、発達段階により、自立活動にかかわる目標に☆を付けたり、音楽、体育、美術など将来余暇活動につながる

ことに☆印を付けたり、教員も児童・生徒も保護者も様々考えて目標設定していることが分かった。また、本校を卒業した生徒は、様々な人とかかわりながら地域社会あるいはもっと広く世界で活躍していくことになる。そのため、学校として、地域とのかかわりを大切に、教育活動においても地域との連携を重視していく。地域の作業所等に学校で使う教材作成業務を委託する事業では、受託した利用者は、母校で使う教材を作ることで母校に貢献しているという意識をもつことができる。また、生活介護施設で、本校で使用していた教材やアプリを引き継いで使ってもらうことで、卒業生のQOL向上につながる。さらに、SDGsプロジェクトで家庭や給食調理室から集めた野菜くずを材料の一つとして作ったたい肥を用いて育てた花を本校の児童・生徒が地域に配布するなどの貢献活動を行う。その際、対面で行うことのみでなく、ICTをツールとして積極的に活用し活動に取り入れていく。

併せて児童・生徒が健康で安心・安全に学校生活をおくることができる環境を整えることをもう一つの柱として引き続き取り組んでいく。その際、児童・生徒が主体的にかかわる糸口として、持続可能な社会づくりへの関与、貢献を挙げたい。

#### 目指す学校

○児童・生徒が「自分らしく成長していく」ウェルビーイングを実現する学校

そのために、児童・生徒が発達段階に応じて「できること」「自ら考える機会」を増やすことを通じて、個に応じた工夫をした授業づくりを推進します。

○児童・生徒が健康で安心・安全に生活できるよう主体的にかかわっていく学校

そのために、児童・生徒が効果的に学ぶことができるよう、安全でシンプルな環境を整えとともにSDGsに関する教育を推進します。